

さんま通信

春

厚生中央病院だより 第21号 2010年



中央手術室の紹介をさせていただきます！

手術室看護師長 大財 きみ子

「手術室」と聞いて、最初に何を連想されますか？
「痛い…」「怖い…」などでしょうか？

当院では安心して手術を受けていただけるように、
麻酔科医による「手術前診察」や看護師による
「手術前訪問」を行い、事前にお会いしてお話を伺い、
麻酔の説明や手術室に入られてからどのようなことを
行うかの説明をしています。また、できる限り手術前
にお会いした看護師が手術に立ち会うようにしています
ので、どんな些細な疑問でも遠慮なくお気軽に質問
して下さい。

手術当日には毎朝麻酔科医と看護師の合同ミー
ティングを行い、情報を共有し患者さんに適した麻酔
方法を選択しています。手術中、麻酔科医は患者
さんの全身状態を安全に維持することを第一優先に、
呼吸の変化や不整脈・血圧の変動から患者さんの
生命を守っています。手術室では全室にモニターを
完備し、サブモニターでも他の麻酔科医が安全を
監視することができるシステムをとっています。
看護師は患者さん一人ひとりに合った、安全・安楽を
考慮した体位の工夫や保温管理等に努めています。

手術室は閉鎖された空間ではありますが、明るく
元気なスタッフが手術担当医と協力し、笑顔と思
いやりの気持ちを持って仕事をしています。今後も
患者さんが手術中および手術後も安全・安楽にお過
ごしいただけるよう、質の向上に努めていきたいと思
っています。

場 所 : 4階フロア
手術対応科 : 整形外科、産婦人科、消化器外科、
泌尿器科、呼吸器・乳腺外科、
脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科
手術室数 : 5室 (24時間緊急手術対応可能)
スタッフ : 麻酔科医師5名 (他非常勤医師5名)
看護師16名、看護助手1名



目次 contents

- 中央手術室の紹介をさせていただきます！ … 1
- 糖尿病と上手に付き合おう！ … 2～3
- 第16回 健康セミナーのご案内
電話による初診予約について …… 4
- 目黒健康フェスティバルに参加いたしました

どうして
さんま通信なの？

目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる
“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、
美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

糖尿病と上手に付き合おう！

糖尿病学会専門医 医学博士

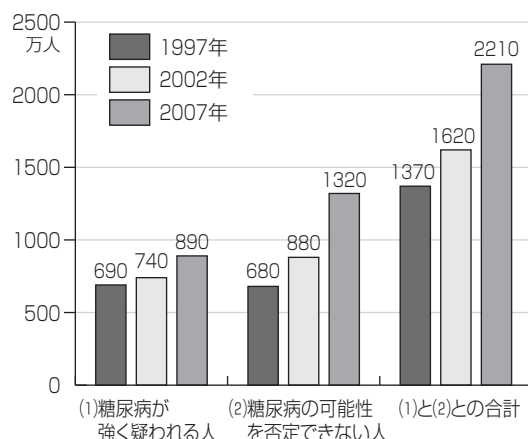
山岡 素子

糖尿病人口は年々こんなに増えている！

糖尿病の患者さんは、どんどん増加しています。2007年厚生労働省の調査では糖尿病およびその予備軍は2,210万人となっています。

これは、つまり40歳以上の3人に1人は糖尿病およびその予備軍ということになります。

糖尿病になる原因としては、暴飲（アルコール、清涼飲料など）、暴食、肥満、運動不足、臓器疾患、薬剤（ステロイドなど）があげられます。また、遺伝性も言われており、両親とも糖尿病の人は50%の確率で子供が糖尿病になるとの報告がされています。



糖尿病があると、2～3倍も脳梗塞が起こりやすい！

脳梗塞は突然起こり、命を奪うこともある恐ろしい病気で、命は助かっても麻痺などのために不自由な生活を強いられることが多くあります。

日本では世界でも脳血管疾患（脳出血や脳梗塞など）の発症率が高く、患者数は136万5千人といわれます。その中でも糖尿病患者は、糖尿病でない人の2～3倍なりやすく、脳梗塞になった人の約半数に糖尿病がみられるのです。脳卒中を予防するためには血糖のコントロールおよびその他の危険因子のコントロールが重要になります。



糖尿病だと虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）のリスクが2倍も高くなるのです！

心疾患で死亡する比率は、糖尿病の人は糖尿病ではない人と比べ、男性では約1.9倍高く、女性では約2.5倍高いとされています。

腎不全になる原因のNo. 1は糖尿病！

1年間に新たに透析を始めた患者数は、原疾患をみると、糖尿病性腎症がもっとも多く1万4,968人で、全体の42.9%を占めます。腎不全全体でみても、糖尿病に起因するのは、そのうちの8万543人と全体の32.3%にあたります。

これ以外にも、糖尿病の合併症としては、失明に至ってしまう網膜症、糖尿病性壊疽などを合併することもある神経障害、閉塞性動脈硬化症など怖い合併症がたくさんあります。また、血糖値のコントロールが悪いと感染症も合併しやすく、重篤化しやすいのです。しかし、糖尿病をうまく管理することによって、予防できるのです。



定期的な健康診断が糖尿病およびその予備軍を見つけるためには重要！

「糖尿病が強く疑われる人」の中で「現在治療を受けている」と答えた人は、男女計で50.6%でした。自覚症状の乏しい糖尿病では、健康診断が治療を始めるうえで欠かせないものです。

糖尿病治療は普段の生活にある！

糖尿病の治療は、食事療法、運動療法が2本の柱となります。糖尿病の治療は、生活にあります。また、慢性疾患ですから、無理をしすぎず、長く付き合っていくことが大事です。症状はなくても合併症や血糖値の定期的なチェックをした上で、血糖値の良好なコントロールをしていくことが合併症を防ぐ上で重要なのです。

糖尿病教室（集団指導／医師・管理栄養士・薬剤師・検査技師による）！

糖尿病教室は、現在当院通院中または入院中の患者様を対象に1月26日、2月2日、2月9日に行いました。次回は、4月13日（火曜日）、4月20日（火曜日）の14時半から16時まで行う予定です。詳しくは、院内掲示板、当院栄養科（嶋崎・米原）までお問い合わせ下さい。



近隣の先生方と地域連携を！

厚生中央病院では、昨年度から糖尿病専門医および3名の管理栄養士、糖尿病療養指導士が常駐しております。糖尿病の教育入院のクリニカルパスも始動しました。今後、近隣の地域の医療機関様と連携して、より良い糖尿病治療および地域連携を図っていきたくております。

糖尿病の治療の基本は食事療法および運動療法になります。また、境界型糖尿病と言われた人も今後糖尿病にならないためにも予防的治療が必要です。しかし、開業医の皆様が食事指導を行うことは、時間的・人力的に負担が大きいかと思われれます。実際、近隣のクリニックにおいて“食事指導をちゃんと受けたことがなかった”という患者様方も少なくはありません。もちろん家庭医の存在は地域医療において大変重要です。こういった問題を解決するために私たちは以下の二つの方法でサポートさせていただきたいと考えております。

① 1～2週間の教育入院

② 栄養指導のみのご依頼（個人指導／管理栄養士による）

入院ができない患者様や食事療法のみご希望の患者様をご指導いたします。医師による診察後、指導日の予約をおとりします。

①、②とも当院での通院加療も出来ませんが、ご希望によっては紹介元の医療機関にお返しするかたちで、今後皆様とも連携をとっていきたくております。

糖尿病専門外来は、月・水・金の午後1時から予約制で診療を行っています。予約は専用電話（03-3716-8124）になります。

第16回 健康セミナーのご案内

高齢者の方の転倒・骨折は、寝たきりとなる原因の上位を占めています。
転倒しないための心構えと自宅で出来る予防体操を紹介します。

日時：平成22年5月29日(土) 午後2時～4時

会場：厚生中央病院 3階 講義室

内容：①「転倒予防教室」 講師 リハビリテーション科 佐々木 伸 医師
②医師による個別健康相談

定員：40名(予約制)

ご希望の方は03-6863-2890・2891までご連絡をお願いいたします。
なお、参加費は無料です。

電話による初診予約について

当院では、患者さまの利便性を向上させるため、初診予約を電話で受け付けております。
(ただし、産婦人科、麻酔科は除きます。)

受付時間 平日(月曜から金曜) 午前9時から午後4時まで
電話番号 03-3716-8124 (予約専用)

- *診療の都合によっては、予約時間に診察できないことがありますので、あらかじめご了承ください。
- *初めて受診される方やしばらく通院していない初診の方で、他院からの紹介状をご持参いただけない場合は、保険外併用療養費として初診料に3,150円が加算されます。

目黒健康フェスティバルに参加いたしました

第4回目黒健康フェスティバルが2月21日(日)に目黒区民センターで開催されました。
当院もこの健康フェスティバルに参加し、多くの方々にご参加いただきました。厚く御礼申し上げます。



当日は、区民センターで「男脳・女脳と脳卒中」の講演と「転倒予防教室」を、厚生中央病院で放射線科や手術室等の見学ツアーを行いました。
来年も参加する予定ですのでよろしくお願いたします。

病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

